

ても共同体としての智恵を働かせることになる。

このように、環境をテーマにした世界初の博覧会であればこそ、そこに設えられた水景もまた、会場の彩りと併せ、環境に貢献する水景としての性格が色濃く出ている。

元々、長久手のこの土地は陶土の採掘等の原因で裸山となっていた。そこに100年前、砂防の技術者であるお雇い外国人アメリカ・ホフマンが、大規模な砂防を実施し、見事今に見る丘陵の緑を回復させた。それまで裸山からの伏流水に期待できなかった農業者達は懸命に溜池を築造した。

会場計画は会場内に数多く点在するこれらの溜池を巧みに水景として活用し、その溜池に噴水や滝・流れを織り込み楽しい設えとしている。

しかもそうした人為的水景設備が、あらかじめ行われた環境アセスメントにより調べられたさまざまな希少種や貴重種の生態を損ねぬよう、細心の配慮がなされている。

### ● 愛・地球博から見た明日の水景

愛・地球博の水景は、改めて博覧会のコンセプトに適合するために、さまざまな研究開発がなされた。

例えば「バイオラング」と名づけられた巨大都市緑化壁の展示には、ミストが張り巡らされ、その演出効果と共に植物に対する灌水機能、そして何よりも気温の減衰効果の機能が託されている。

バイオラングのみならずミストの効用を活用するために、会場全体にミストが配置されている。その目的は暑さ対策であり、涼感の演出にある。

こうした博覧会の水景計画に、水景の明日を占うヒントがあるように思える。

つまりこれまでの空間装飾型の水景デザインの研究は当然であるが、重ねて環境や健康に具体的に貢献できる新しい水景の研究と市場化が望まれていることである。

例えばドイツでは、さまざまな形で環境貢献型の水景が町に進出し始めている。かつて胸を患った人々が治療のために訪れた、クーア・パークの水景の効用や、地下から汲み上げられたミネラルたっぷりの塩水を、樹木のソダの上から点滴させ、その間を通る風を吸い込むことにより治療効果を上げる伝統的装置等を改めて見直す等の気運が改めて高まりを見せている。

わが国は超高齢化社会である。また成熟した脱工業化社会でもあり、人々の自由時間が拡大することは言うまでもない。であればこそ楽しく美的で快適で、さらに環境と健康に効用ある水景が求められていることを理解すべきであろう。

博覧会を訪れた人々のそうした新しい水景に対する反応を見ながら、人の幸福に貢献できる明日の水景を、共に模索したい。

## 博覧会と水景

株式会社 東工業  
桶谷喜次(関東支部長)



博覧会は公園と違い一過性のイベントのため、アピールを強くし、その時の感動をいかに伝えるかに重きが置かれた。そのため水景も自然背景以外は装飾的に華美され、技術の進歩とともに複雑化してきた。

だが、最近の博覧会ではそれら以外に遊べて憩える水景が出てきた。98年のリスボン博に登場した造波を伴ったカナルとホルケーノ噴水は、来場者の涼としての憩いや楽しさを演出している。また、今年の浜名湖花博の噴水広場は、子供たちが大はしゃぎするほどの賑わいとなっていた。

時代は物質から精神へとシフトし、人々の生活様式が今変わろうとしている。

2005年の愛知万博のテーマは「自然の叡智」。私たちは、自然から何を学ぶべきであろうか？ 今度の展覧は完成品を飾るのではなく、あえて質問を投げかけるものだと思う。都市のヒートアイランド対策として緑化壁「バイオ・ラング」もそうした提案の一つだ。それに使用される人工の霧も水景の未来を示している。

物としての水から参加する水、そして環境としての水。水というエレメントをどう活かすか、私たちのこれからの課題である。



## 浜名湖花博を見学して

荏原実業株式会社  
マリーン&アクア部  
村上 かず枝



浜名湖花博は園芸博覧会ということで、会場内の演出は細かい工夫が凝らされ、手入れがいきとどいていました。また、ちょうど「月見の庭」という企画展が行われており、とても興味を惹かれました。“風景を愛でる心は、いつの時も変わらずにある”というメッセージが印象的です。

一方で、壁面緑化や親水施設など、アメニティ創出の要素も含まれており、学ぶべき点が多くあったように思います。

とくに、水の広場(噴水施設)では、びしょ濡れになって遊ぶ子供たちで大賑わい。“水を絡めたアメニティがいかに求め

られているか”を実感しました。水から涼を得る快さはもちろん、水で楽しさを提供する場が、本当に不足しているのではないのでしょうか。

その他にも、ダイナミックな虹の滝(延長200mのウォーターカーテン)や、アイディアの光る足水ベンチなど、水を使った演出・工夫がいたるところに見られました。これらは博覧会ならではのものであり、そのまま日常の空間に取り入れることは難しいかもしれませんが、今後、水景を考えるうえでのヒントにしていきたいと思います。